

革であそぶ③

How to Leather Craft

革でつくる動物

森下雅代



美術出版社

革であそぶ③

How to Leather Craft

革でつくる動物

森下雅代



美術出版社



動物のマスコットや干支は裁断した革を水で濡らして、指先でひねるだけでできます。ひねり方や色のつけ方をかえると同じ型紙からたくさんのバリエーションが生まれ、つくる人の個性が出てきます。少し慣れたら新しい動物づくりにチャレンジしてみてください。



はじめに

人類の祖先が狩猟・採集によって生きる糧を得ていた時代から、皮革はものづくりの重要な素材でした。動物の皮はたき火の煙や、植物の浸出液、唾液や糞尿、脳漿、明礬、もみ叩きなどで柔らかく保たれ、腐ることなく長く使われるようになりました。この工程を「なめし」といいます。いろんな地域のさまざまな民族が、手近かに得られる材料で「革をつくる」ことを工夫し、中でも植物のタンニン分でなめした革は適度な堅さと成形性を持ち、古来いろんな革加工技術となって発展してきました。革であそぶシリーズ1『革細工入門』、2『革のアクセサリ』でもこの性質を大いに活用してきました。また、革は微細な繊維が密に絡み合っているため、切り口がほころびません。したがって裁ちっぱなしのまま使えます。

このシリーズ3冊目となる『革でつくる動物』では、動物マスコットや干支をとりあげました。動物は裁断した革を水で濡らして、指先でひねるという作業だけでできます。手触りよく柔らかい皮革素材は、基本的には皮革と裁断用のハサミやカッターと水があればつくれるので、安全で使いやすく、幼児や年輩の方にも喜ばれます。病院や施設のリハビリ教材としても最適です。

型紙の裁断線はできるだけ単純な線になるように心がけました。特に切り込み線は、直線を多くして作業しやすいようにしてあります。革をひねるときは指や手のひらのふくらみを利用して丸みを出すようにしましょう。ひねり方や色のつけ方をかえると同じ型紙からたくさんのバリエーションが生まれます。刻印を打ったり、金具をつけたりしてみましょう。つくる人の個性が出てきます。少し慣れたらご自分でも新しい動物づくりにチャレンジしてみてください。干支の動物は縁起物として飾るのも楽しいものですが、キーホルダーや根付け、ストラップ飾りにするとプレゼントとしても喜ばれます。十二支を揃えてみました。

すでに革細工を経験しておられる方のために、動物の彫りの作例も紹介しました。カービング技法での表現は刻印を少し傾けて打ったり、連打したり、滑らせたりして表情を出していきます。動物の特徴をつかむためにも姿や形、しぐさなどをふだんから観察されることをおすすめします。

さあ、楽しい動物づくりをはじめましょう。

2005年10月

森下雅代

CONTENTS

はじめに	2	未——ヒツジ	35
口絵	4	●カシメの止め方 ●毛皮の表現法	
ぬらしてひねる革でつくる動物たち	11	申——三猿(見ザル・言わザル・聞かザル)	36
●革を裁断する ●水でぬらして成形する ●彩色する ●革細工用具 ●仕上げ剤		酉——トリ	37
ゾウ	12	戌——イヌ	38
●革の裁断法 ●色のつけ方 ●ゾウのつくり方 ●アレンジの仕方いろいろ		亥——イノシシ	39
ラッコ	14	●色のつけ方 ●土台のつくり方	
●革の裁断法 ●色のつけ方 ●貝のつくり方 ●ラッコのつくり方		動物のくふう	40
バンダ	16	つくってみよう いろいろな技法でつくる動物	41
クマ——立ちクマ、座りクマ	17	手縫いとアップリケ——ニワトリとフクロウの根付け	42
●色のつけ方 ●魚のつくり方		革をひねってつくる——指人形	43
イヌ——ダックスフントとお座りイヌ	18	クレヨン描き、染め、造形とモザイク——ペンスタンドの動物園	44
●ダックスフントのつくり方		●いっぱい集めて動物 ●動物のお面いろいろ	
ネコ	19	スタンピング技法と革造形	
フクロウ	20	——トリのメガネスタンド/トラのリモコンスタンド	46
キリン/カタツムリ	21	●染めの手順	
トナカイ/シマウマ	22	カービング技法と革造形——馬と唐草の組み合わせ	48
リス/キツネ	23	●馬の表現法	
アザラシ	24	トリを彫る——トリのショルダーバック	50
●アザラシのつくり方		●カービングの手順	
オットセイ/オコジョ	25	龍を彫る	52
動物をアレンジしてみよう——ペン立て	26	●雲の表現法 ●ウロコの表現法	
あなたの干支は? 十二支	27	フィギュアカービング——イヌを彫る	54
子——親子ネズミ	28	●バスケット刻印の打ち方 ●スーパースタイルで切り込む	
●形のつけ方の要点 ●ネズミのつくり方		森の小羊を彫る——風景と組み合わせ	56
丑——親子ウシ	29	動物の壁飾りと応用例	57
●動物のつくり方		トータルポールの動物たち	58
寅——トラの親子	30	●北米・北西海岸先住民芸術から ●基本図形	
卯——ウサギ	31	基本形を組み合わせ革で表現	
辰——タヌキ	32	——単純な形の中から新しい造形デザインを生み出そう	59
巳——ヘビ	33	お面をつくる——ビーバーのお面	60
●ひねり方のバリエーション		●お面のつくり方	
午——ウマの親子	34	ペン立てをつくろう——積み上げてトータルポールに	61
		掲載作品キット一覧	62



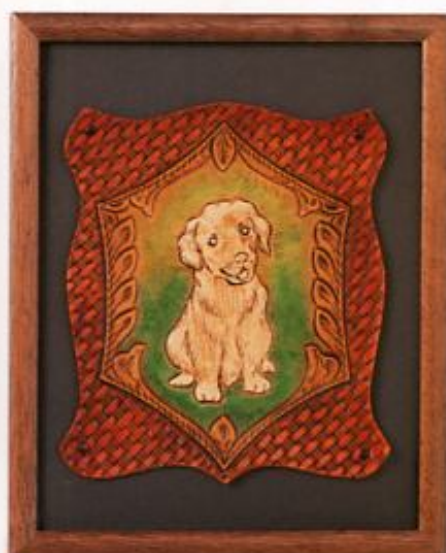
かわいい革の動物グッズ。たくさんつくって楽しもう。





小物やインテリアに、革の動物たちを自分らしくアレンジ。







ぬらしてひねる 革でつくる動物たち

革を裁断する



水でぬらして成形する



〈用意するもの〉

革切りハサミ キッチンハサミ、カッター、革包丁でもよい

接着剤 合成ゴム糊または酢酸ビニル樹脂系エマルジョンタイプ

用具 水を入れる容器と水を含ませるスポンジ

生成りのままでも味があるが、色をつけると楽しい。

彩色する

皮革用液体染料



アクリル絵具



油性サインペン



あれば使える革細工用具

模様つけの用具 ゴム板、木槌、下敷き、刻印、モデル

穴あけの用具 丸穴(ハトメ板)、抜き型各種

金具つけの用具 カシメ打ち

仕上げ剤の塗布

仕上げ剤(水性・油性)、

皮革用ラッカー、レザーコートなど

仕上げ剤を塗布すれば、色止め、汚れ防止、型くずれ防止になる。

革細工の技法については
シリーズ1「革細工入門」に
詳しく解説。
合わせてご購入ください。

ゾウ



実物大

中

小

〈用意するもの〉

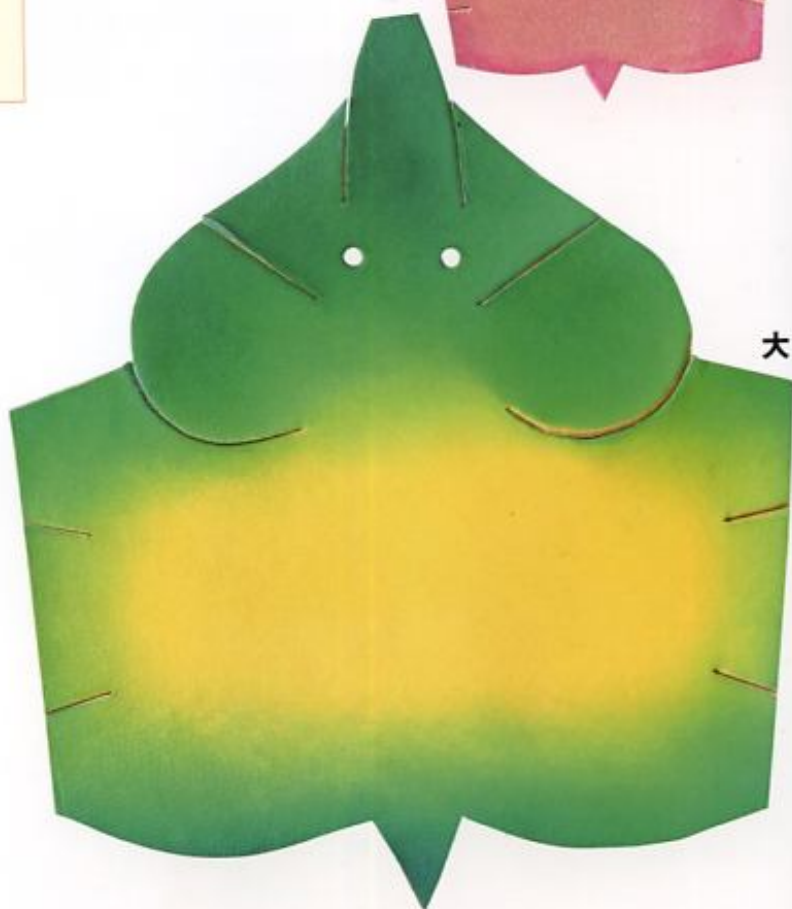
タンニンなめしの成牛革 厚さ1.2ミリくらいのもの
 水を入れる容器、スポンジ、水
 革切りハサミ(キッチンハサミ、カッター、革包丁でもよい)
 他に目の穴あけ用にハトメ抜き(4号、5号、6号くらい)、木槌、ゴム板
 なければキリや目打ちを使うかサインペンなどで描いておく。

革の裁断法

トレーシングペーパーに輪郭線を写しとったら、革の上に置いて鉄筆などで上からなぞっていく。この時、革を軽く湿らせておくといよい。写しとった革はハサミやカッターで型紙どおりに裁断する。

色のつけ方

作例の大は、皮革用液体染料のぼかし染め。皮革用液体染料を彩色筆に含ませて革の上にのせていく。はじめに黄色を全体にかけ、その上に薄めた空色を重ねる。何度も色をかけたところは、濃い緑色になる。染料は透明なのではじめにかけた色の影響を受けることを知っておこう。
 作例の小は、アクリル絵具で着色。絵具は下地の色や初めにかけた色とは関係なく、絵具の色がそのまま出るので、濃い色の上に薄い色をのせたり明るい色で変化をつけたりすることができる。また革の表面に皮膜をつくるので、厚塗りにならないように気をつける。
 作例の中は、生成りのまま成形した。



大

ゾウのつくり方



1 スポンジに水を含ませ、革の裏から軽く湿らせる。



2 表に返して、足りない部分に水分を加える。濡らしすぎないように気をつけよう。



3 湿っているうちに形をつける。胴体をまるめて突き合わせにする。輪ゴムで止めておくとい。きつく締めると跡がつくので注意する。



4 足を丸めるようにして、立たせる。



5 耳、鼻、牙を指先でつまんで表情をつける。



6 完全に乾くまで輪ゴムはつけたままにしておく。乾くとその形に固定する。

アレンジの仕方いろいろ

キーホルダー金具をつけてみよう



革ひもをつけて



根付けや携帯の飾りに



首輪はリボンや柔らかい革ひもを使って、金具などを結んでおく。はじめに金具を首輪に通しておくとうりやすい。作例はビッグスエードレースを使用した。

ラッコ



応用例



実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの



白牛革
1.0ミリ厚



携帯ストラップ用

〈用意するもの〉

タンニンなめし牛革1.2ミリ厚のもの 白牛革

革の裁断法

ハサミなどで輪郭線を切り抜く。毛並み、手足の先は細かく切り込みを入れておく。切り込みを入れないでその形のままでよい。貝は円形の形を二ツ折りにして図のように裁断する。目はハトメ抜き5号で穴あけするか、目打ちなどで印をつけておく。油性サインペンで描き入れてもよい。

色のつけ方

本体は生成りのままでよいが、全体に皮革用液体染料を刷毛染めておくとカラフルなラッコになる。貝の柄、鼻の頭は油性サインペンで描き入れる。

貝のつくり方

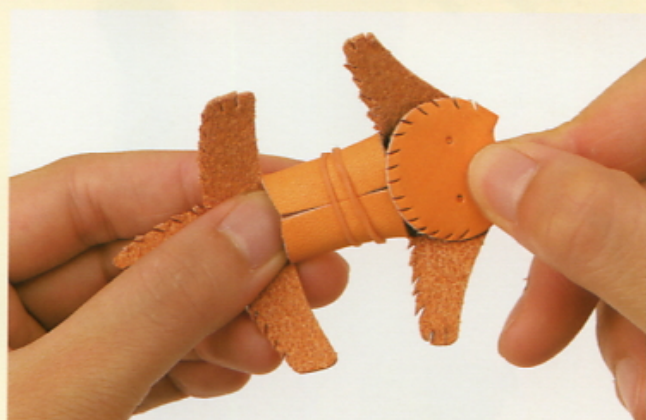


裁断した革を二ツ折りにし、全体に丸みをつけアールの部分を接着しておく。接着剤は乾くと透明になる酢酸ビニール樹脂系のものを使用する。

ラッコのつくり方



1 軽く水で湿らせて形をつくる。背中を指の腹でのばすように丸みをつけていく。



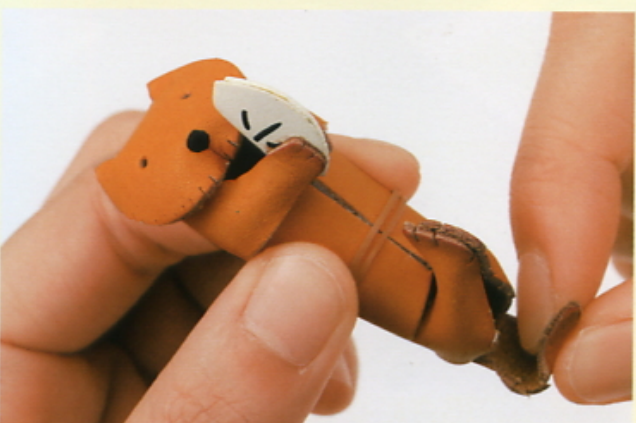
2 腹部を突き合わせにして輪ゴムで止めておく。きつくしすぎると跡がつくので注意しよう。頭は首でヤマ折りにし、耳はつまんで立てる。



3 両手両足を合わせて形をつける。指先でつまむようにして柔らかく丸める。毛並みの感じが出るように周りを指で逆方向になぞっておく。



4 口元を少し折り込んで表情をつける。



5 尻尾の根元をしっかりと二ツ折り(ヤマ折り)にし、形をつけておく。両手の間に貝をはさんで持たせ、糊づけする。



6 キーホルダー金具を取りつけてみよう。革ひもに金具を通しておき、首のところで結ぶ。リボンを使うのも楽しい。

パンダ



実物大

合成タンニンなめし純白
牛革1.2ミリ厚のもの



タンニンなめし革にア
クリル絵具の白と黒で
着色してもよい。



笹などの小道具は、そ
の動物らしさを演出でき
る。薄めのタンニンな
めし革3枚を爪楊枝で
まとめてみた。



後ろから



裏側



携帯マスコット

つくり方の要点

- 1 革を裁断し、毛並みの切り込みを入れる。
- 2 油性サインペンまたはアクリル絵具で目、耳、模様を描き入れる。
- 3 スポンジに水を含ませ、革の裏から平均に湿り気を与え湿っているうちに成形する。
- 4 両耳をつまんで立て、首をやま折りにする。
- 5 口元をつまみ顔をつくる。
- 6 本体、背の部分を指の腹でのばすように丸みをつける。脚は指でつまんでおく。
- 7 尻尾を丸めるようにして立たせ、後ろ脚を折り曲げて座らせる。



油性のサインペンまたはアクリル絵具で描く。

クマ——立ちクマ、座りクマ



下から



後ろから

足先は平らにして
ふんばった形
にする。



後ろから



横から

後ろ脚は折り曲
げた感じにして
おく。



実物大



実物大

色のつけ方

皮革用液体染料の茶色で本体を色づける。口の周りは塗り残しておこう。
鼻は油性サインペンかアクリル絵具で。魚は青色を薄く塗っておく。

魚のつくり方

革を切り抜きニツ折り(ヤマ折り)にする。エラ、目など油性サインペンで描き
込んでおく。魚は糊づけしてクマに持たせたり鼻先に置いたりしてみよう。

座りクマは前ページのバンダと同じ型紙を使用している。

革はタンニンなめしの牛革(1.2ミリ厚)を使った。バンダに用いた白革
(合成タンニンなめし純白成牛革)に比べ、成形しやすいので細かな表
現ができる。

色のつけ方とひねり方、持たせる小道具などで
異なった表情になる。試してみよう。

イヌ——ダックスフントとお座りイヌ



実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの



裏側

ダックスフントの作り方

- 1 革を裁断する。
- 2 好みの色に着色する。作例は皮革用液体染料でぼかし染めた後に、アクリル絵具で鼻、耳、尻尾を彩色した。油性サインペンなどでカラフルにしても楽しい。
- 3 革が湿っているうちに形をつける。胴を筒状に丸め、おなかの真中で突き合わせ、輪ゴムなどで止めておく。
- 4 足、耳、鼻、尻尾をつまんで表情をつけ、首は少し持ち上げるようにして形を整える。
- 5 完全に乾いたら輪ゴムをはずす。はずしても形は固定されたままで元には戻らない。

色のつけ方、ひねり方で表情が変わってくる。
いろいろ試してみよう。



耳、鼻、足先はアクリル絵具で、本体は皮革用液体染料で着色。

ネコ



裏側



横から

背中を指で押さえながら、首を持ち上げるように形をつける。



前から

目はしずく形の型抜きを使った。油性サインペンでネコの目を描いておくのもよい。丸抜き(ハトメ抜き)でも可愛い表情が生まれる。



上から

足をしっかり踏ん張った形にしておかないと倒れてしまうので注意する。

作例は全て同一型紙で、染め方を変えたもの。
アクリル絵具や油性サインペンを利用しよう。



実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの

フクロウ



羽根の動きを変化
させるいろいろな
表情がつけれる。



後ろ姿
両方の羽根を
ひろげた。



正面
片方の羽根を
ひろげてみた。



油性サインペンで
自由に描いてみよう。



実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの

スタンピング法で...

O50 V707
O45 (ELLE)
カシメ打ち小
作例の色はアクリル絵具
で細かく彩色した。皮革
用液体染料やペースト染
料も使ってみよう。

★スタンピング法につ
いてはシリーズ1「革細工入
門」に詳しく解説。

つくり方の要点

- 1 裁断、模様づけ、着色が終ったら、頭のところでニツ折り（ヤマ折り）にして耳を立てておく。
- 2 足をはさみこんでお腹と背中を糊づけする。この時お腹の中へ丸めた綿などを貼りつけておくとふくらみが出る。
- 3 羽根先の切り込みを少しひねって表情をつける。
- 4 頭の部分は糊づけしないで浮かせておく。

応用例

このキーホルダーは、北海道埋
蔵文化財センターのマスコット
キャラクター「フクロウ博士」を
イメージして作成した。



キリン



前から

つくり方の要点

- 1 革を裁断して着色しておく。
- 2 頭をやま折りにし耳、角を立てておく。
- 3 首はニツ折りにして全面を糊づけする。
- 4 お腹の部分は重ねて糊づけし、足をニツ折りにしてしっかりと立たせる。
- 5 背中に指をあて、首を持ち上げるようにして立たせる。
- 6 尻尾をまるめて整える。

実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの



皮革用液体染料で染めた上にアクリル絵具で彩色した。
油性のサインペンを使ってもよい。



カタツムリ



カタツムリ 小

尻尾にあたる場所へ切り込みを入れ、その部分をタニ折りにして支える。
スーパーカッターやモデラ、鉄筆などで線を引く。刻印を打っても楽しい。
作例はオレンジが右の型紙2cm×25cm。
大(生成り・緑)の寸法は3cm×30cm。

実物大

タンニンなめし成牛革
1.6ミリ厚のもの

トナカイ



つくり方の要点

- 1 革を裁断し、毛並みの切り込みを入れる。
- 2 皮革用液体染料で茶の濃淡に染める。耳、角は裏側も染めておく。
- 3 両耳をひねって裏返す。
- 4 同じく角をひねって裏返し、形をつけて耳の後ろに立てる。全体に指先で丸みをつける。
- 5 顔、首、胸をやま折りし、丸みをつける。
- 6 首は付け根のところに指をあて、持ち上げるようにして立てておく。
- 7 脚は指でつまんで形をつけ、4本で立てるようにする。

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



皮革用液体染料でぼかし染め。茶の濃淡。

シマウマ



つくり方と型紙は、p.34〈おうまの親子〉と同じ。
縞模様はアクリル絵具で描き入れた。油性サインペンでもよい。

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



リス



斜め後ろから



横から



ドングリを持たせる

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



皮革用液体染料を彩色
筆にふくませ、描き染め
にした。染料は水で薄
めながら使う。鼻は油
性サインペンで。

キツネ



実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



前から



横から



後ろから



毛皮の尻尾をつける



皮革用液体染料をばか
し染めにする。鼻、耳
は油性サインペンで描
き入れた。

アザラシ

実物大



2枚の革を組み合わせて胴体をつくる。

タンニンなめし成牛革1.2ミリ厚のもの
皮革用液体染料またはアクリル絵具でゴマフや鼻、
ヒゲなどを描いておく。白牛革を使っても可愛い。

背中から



お腹から



アザラシのつくり方



1 顔を形つくる。鼻先の中心を少しへこませておく。口元は指でつまんで細くする。



2 胴全体を丸くなるようにしておく。



3 腹部を形つくる。口元を少しそらし加減にして、全体にゆるいヤマ折りにする。



4 背中と腹部を組み合わせて糊づけしておく。

オットセイ



お腹から



横から

上から

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



皮革用液体染料の黒
または焦げ茶のぼかし
染め。水で薄めながら
染めていく。

2枚の革を組み合わせて
胴体をつくる。つくり方、
形のつけ方はアザラシと
ほぼ同じ。

オコジョ



横から



前から



上から

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



皮革用液体染料の茶
のぼかし染め。鼻先、
尻尾の先はアクリル絵
具か油性サインペンで
描く。

指で背中を押さえながら、首を
持ち上げるように形をつくる。

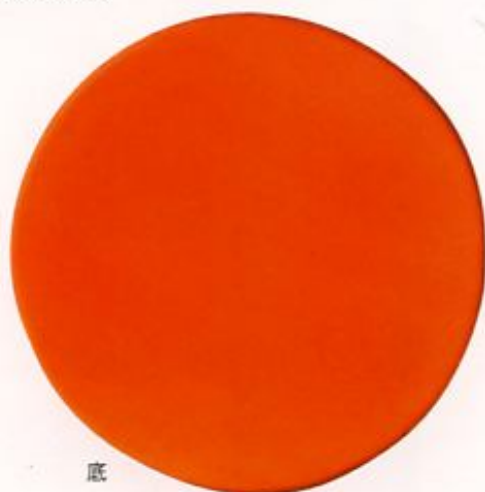
動物をアレンジしてみよう

ペン立て

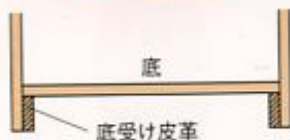


本体
タンニンなめし成牛革1.2ミリ厚のもの
作例はエンボスレザーを使用

底
タンニンなめし成牛革または牛床革
少し厚めのもの



底



底受け用皮革

飾り革をつけてカラフルに・・・

クロスステッチで、突き合わせにとじ合わせる。

実物大



本体には合成裏革(糊つき)を貼りつけて仕立てた

あなたの^{えと}干支は？
十二支



子——親子ネズミ



前から



後ろから

親子とも作り方は同じ。

形のつけ方の要点

革は軽く湿らせた状態で成形するが、濡れすぎても足りなくても形が付きにくいので、ちょうどよい湿り加減を手の感覚で覚えておこう。革を裁断して切り込みを入れ、着色した後で形をつくっていく。乾くとその形のまま固定する。

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



親ネズミ



子ネズミ

着色はアクリル絵具を使用した。油性のサインペンでもよい。白牛革(合成タンニンなめしの純白革)を利用してもよい。

ネズミの作り方



1 腹部を重ねて糊づけし、胴体を筒状にする。



2 首の部分でヤマ折りにし、鼻先をつまんで顔の表情をつける。耳も立てておく。



3 前脚をニツ折りにして揃えておく。後脚はひざの部分を少し凹ませて折り込み、足首はタニ折りにする。

丑

親子ウシ



つくり方の要点

- 1 型紙に合わせて革を裁断する。口、耳、手、足、尻尾などの切り込みを入れておく。
- 2 アクリル絵具か油性サインペンで着色する。
- 3 裏から軽く湿らせて成形する。本体を二ツ折りにし、お腹を内側へ折り曲げる。口元を少し折り込み、鼻先の中心をへこませて脇をふくらませる。耳はしっかりと立てておく。
- 4 足は二ツ折りにして4本をバランスよく整え、倒れないようにする。



前から

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



親ウシ



子ウシ



敷物のつくり方

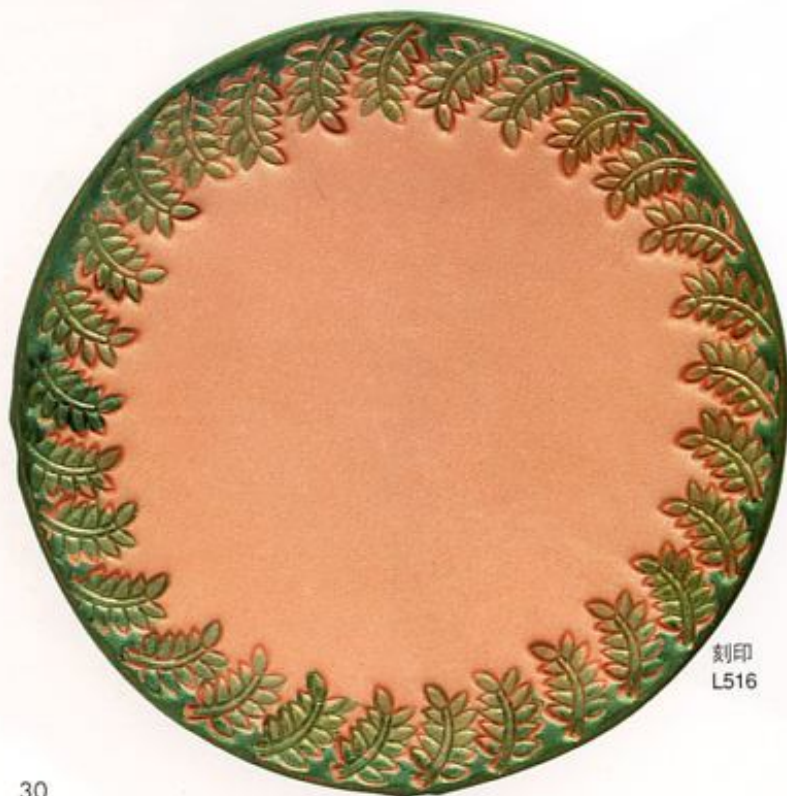
羊吟革(タンニンなめしの羊革の表面を残して、薄くスキ落としたもの、厚さ0.3ミリ)を牛床革の上に貼りつけたもの。羊吟無地は染めつきがよいので、皮革用液体染料で着色できる。薄く柔らかいので扱いやすい。牛床革はタンニンなめしの成牛革の表面をスキ落とした残り革。作例は厚さ2ミリのものを使用した。

寅——トラの親子



つくり方の要点

- 1 革を裁断する。耳、手、足、尻尾などの切り込みを入れておく。
- 2 本体を皮革用液体染料で染める。乾いたら縞模様をアクリル絵具か油性サインペンで描き入れる。
- 3 裏から軽く湿らせて成形する。胴体を筒状に丸め、お腹の部分を糊で貼り合わせておく。足は二ツ折りにつまんで指先をひろげておく。
- 4 背中中は平たく凹ませ、首を軽く立ち上げる。



刻印
L516

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



親トラ



子トラ

背中中の凹ませ方と首の立ち上げ方



でき上がり寸法 ●干支置物台付 4×10×10cm ●子トラ 2.5×5.5×2cm

卵——ウサギ



前から



後ろから



横から

つくり方の要点

- 1 型紙に合わせて革を裁断する。口、足先、尻尾などの切り込みを入れておく。
- 2 アクリル絵具か油性サインペンで着色する。白革を使うと白ウサギになる。タンニンなめし革にアクリル絵具の白を着色してもよい。白革は合成タンニンでなめした純白の革で、多少形はつけにくい。
- 3 軽く湿った状態で成形する。耳は裏に返して立てておき、尻尾を支えにして座らせる。
- 4 両手は合わせるようにしておく。足は座りのよいように内側へ折り込む。

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



白牛革
1.2ミリ厚のもの



耳は裏返すので、
裏に赤い線を入
れておく。



辰——タツノオトシゴ



〈組み立て方〉



つくり方の要点

- 1 頭をニツ折りにしてハサミで切り込む。
- 2 本体上部をタニ折りにし、尻尾を丸めておく。
- 3 頭を下に向け背中を丸めて切り込みを立てる。
- 4 本体上部のタニ折り裏を、頭の根元裏に糊づけして組み立てる。

キー金具をつけて
マスコットに。



でき上がり寸法 ●干支置物台付 10×8×8cm

巳——へび



アクリル絵具の金と銀を使用。

〈ひねり方のバリエーション〉



色をつける前に水玉などの刻印を打っておくと、可愛いへびになる。



でき上がり寸法 ●干支置物台付 6×13×10cm

実物大

タンニンなめし成牛革
1.2ミリ厚のもの



本体



指先でひねっておく。



本体

舌



下あご



舌は指先で丸めておく。
下あご、舌はGボンドで
接着する。

午——ウマの親子

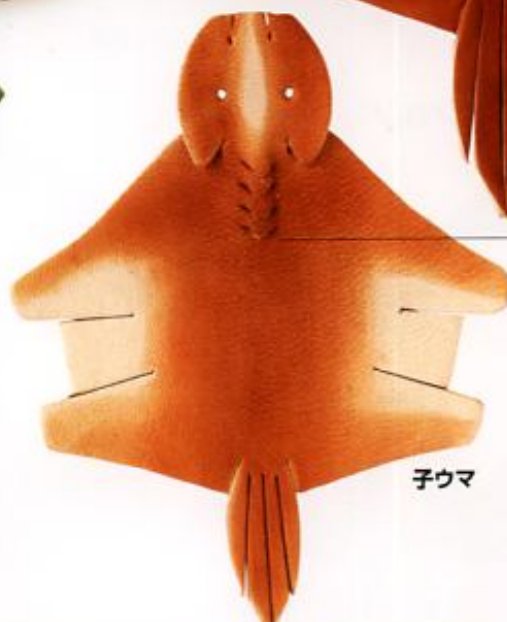


実物大

タンニンなめし皮革
1.2ミリ厚のもの



親ウマ



子ウマ

たてがみ、尻尾に切り込みをハサミで入れる。

皮革用液体染料を彩色筆につけてぼかし染めにした。



キーホルダー

応用例



携帯ストラップ

つくり方の要点



1 たてがみの部分は、首のところをニツ折りにして、ヤマの部分にハサミを入れる。尻尾の先もハサミで切り込んでおこう。



2 頭のつけ根部分をヤマ折りし、耳を立て背中を指先で押さえながら、首を立てるように形をつくる。



3 口元は、鼻をふくらませるようにして顔の形を整える。

未——ヒツジ



応用例

キーホルダー

柔らかい革ひも(ビックスエードなど)を首輪のように結んで、キーホルダー金具を取りつけたもの。結ぶ前に金具を通しておこう。

実物大

タンニンなめし皮革
1.2ミリ厚のもの



刻印O45(ELLE)を打刻して羊毛の感じを出し、アクリル絵具で着色した。

カシメの止め方



穴を合わせてカシメで止め、打ち具で打つ。打ち台は細長い金属をさし込んで代用する。カシメ打ちがなければ、接着剤で貼り合せておいてもよい。

毛皮の表現法 毛皮のいろいろな雰囲気を楽しもう。



市販のモコモコマーカを、身体の部分に塗りつけると毛皮の雰囲気がでる。



毛皮(ラム)を貼りつけると豪華になる。毛皮は裏から裂くように裁断する。Gボンドでしっかり接着しておく。

申——三猿〈見ザル・言わザル・聞かザル〉



実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの

三猿ともに裁断法と着色法は同じ。ひねり方で表情を変化させている。皮革用液体染料のぼかし染めで茶の濃淡。ぼかし染めは彩色筆を使って水で薄めながら着色していく。

革を裁断して着色し、湿っているうちに成形する。



つくり方の要点

濡らしてひねれば形がつき、その形のまま固定する性格を利用した革の造形。同じ型紙を使っても全く異なる表情を生み出すことができる。首をやま折りにして胴体を丸め、足を折り曲げるところまでは同じで、顔の表情と手の曲げ具合で変化させる。お尻の部分は写真のように内側へ折りたたんで、少し浮かせるようにしておくとい。

見ザル



言わザル



聞かザル



酉——トリ



実物大

タンニンなめし牛革1.0ミリ厚のもの



つくり方の要点

- 1 革は合成タンニンなめしの純白革(牛)を使用する。裁断して切り込みを入れて、ハトメ穴もそれぞれに開けておく。カシメ穴は、カシメ打ち具がない場合あけなくてもよい。(糊づけする)
- 2 本体腹部にカシメを打つ。カシメ穴B、B'を合わせる。カシメ打ち具がない場合は、糊づけでもよい。
- 3 尾を立ち上げ、尾の先をひねっておく。
- 4 背に指をあて頭部を起こしておく。羽根をひねって形をつけ、カシメ穴にさし込んで裏を糊づけする。
- 5 胸の部分にカシメを打つ。カシメ穴A、A'を合わせる。(糊づけでもよい)
- 6 トサカ、クチバシを取りつけ、頭の部分を糊づけしておく。オンドリは型紙どおりにメンドリはトサカ、尾を少し小さめにしておくとい。
- 7 脚を胴体の切れ目にさし込んで糊づけする。



戌——イヌ

実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの



前から



横から



つくり方の要点

- 1 革を裁断する。口、耳、尻尾、手、足の切り込みも入れておく。
- 2 好みの色に着色する。作例は皮革用液体染料の茶を彩色筆でぼかし染めにした。鼻先はアクリル絵具か油性サインペンで。
- 3 軽く温った状態で成形する。お腹を重ねて糊つけし、胴体を筒状にする。耳を立て頭を持ち上げるようにおこす。顔は鼻先をおこし、口元を引き締める。足は二ツ折りにし、しっかりと踏んばらせて立つようにする。尻尾は丸めてはねておく。

牛床革(2ミリ厚、直径11cm)の上に
ビッグスエード(直径10cm)を貼った。

でき上がり寸法 ●干支置物台 4×11×11cm ●子イヌ 3×4×1.5cm

亥——イノシシ



斜め横から



上から



お腹から



牛床革(2ミリ厚)の上にタンニンなめしの豚革(0.5ミリ厚)

実物大

タンニンなめし牛革
1.2ミリ厚のもの



色のつけ方

皮革用液体染料の濃淡で下塗りしておく。乾いたら斑点をアクリル絵具で描く。

土台のつくり方

牛床革の上にタンニンなめしの豚革の薄いものを、少しシワを入れながら貼りつける。白ボンド(酢酸ビニール樹脂エマルジョンタイプ)を使用する。乾いたらペースト染料をすり込み、布でよく磨く。牛床革と豚革は同寸に裁断しておく。

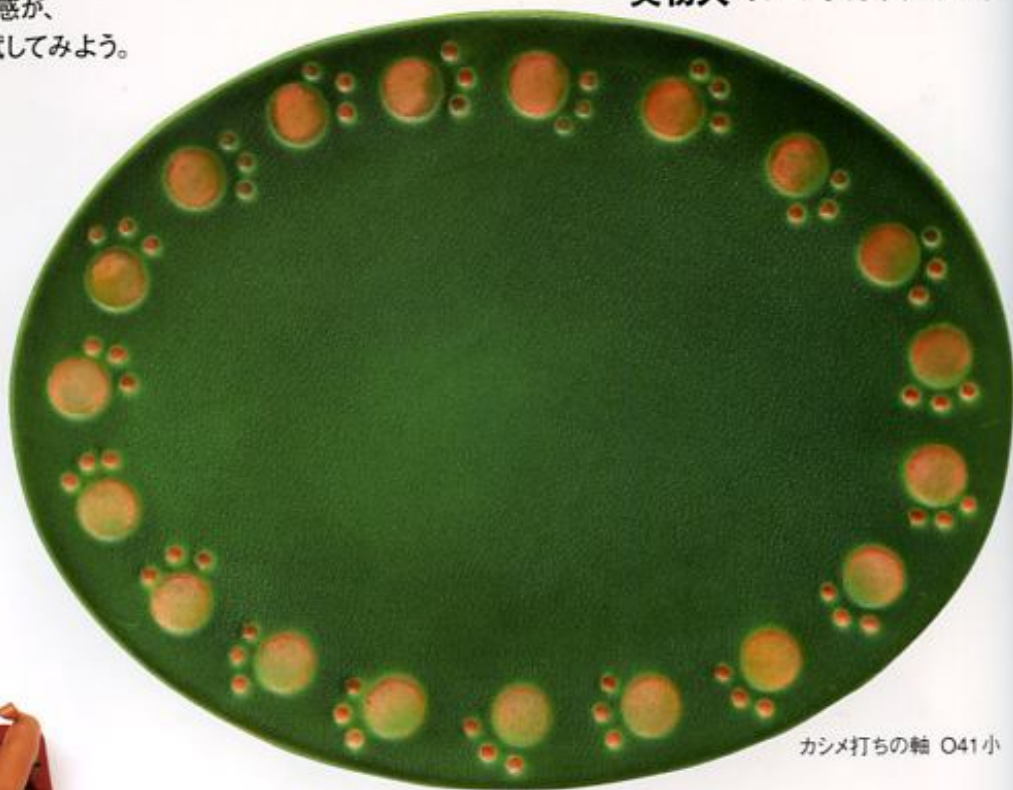
敷物のくふう —— 干支のマスコットをのせたり、色違いの動物を並べたり…

少し厚めのタンニンなめし革のへりを磨いて使う。
生成りのままも味があって楽しい。
牛床革を使うと表面の粗いザラザラ感が、
動物を引き立ててくれる。いろいろ試してみよう。

実物大 タンニンなめし牛革2.5ミリ厚



タンニンなめしの牛革に刻印を打って模様づけをしてみよう(スタンピング技法)。軽く彩色すると文様が浮かび上がる。作例は皮革用液体染料で布によるふき染め。



カシメ打ちの軸 O41 小



刻印はいろいろな形、大きさのものが市販されている。アルファベットや数字などを組み合わせて使うと変化がでる。作例は縁取りのスカラップ部分に皮革用液体染料を色さしておき、乾いてからペースト染料をすり込んだ。

実物大 ペースト染料を塗布する前の下染め

タンニンなめし牛革2.5ミリ厚

スタンピング技法と革の着色法についてはシリーズ1『革細工入門』に詳しく解説。参考にしてください。



V407 Z609 数字棒

つくってみよう

いろいろな技法でつくる動物

手縫いとアップリケ

ニワトリとフクロウの根付け

革をひねってつくる

指人形

クレヨン描き、染め、造形とモザイク

ペンスタンドの動物園、動物のお面いろいろ

スタンピング技法と革造形

トリのメガネスタンド、トラのリモコンスタンド

カービング技法と革造形

馬と唐草の組み合わせ、トリを彫る、龍を彫る、
イヌを彫る、森の小羊を彫る

トーテムポールの動物たち

牛床革にクレヨン描き、上から軽く染料をかける、染めた
端革を切り抜いて貼る、紙筒に貼って積み上げる、同様の
技法でお面もつくってみよう。

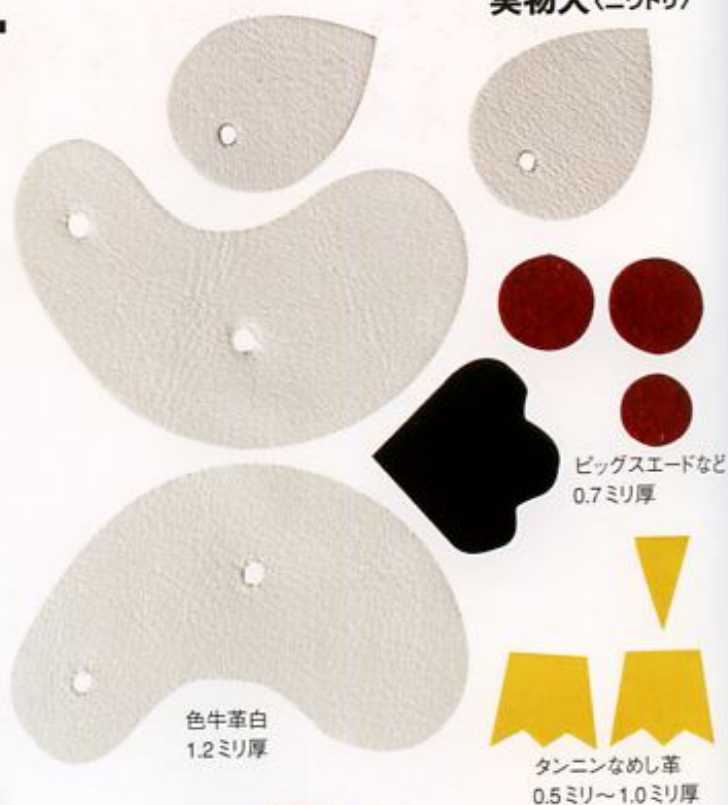


手縫いとアップリケ

ニワトリとフクロウの根付け



実物大<ニワトリ>



革は細い繊維が密に絡み合っていて、切断してもほつれないのが特徴。裁ちばなしのまま使える。ハサミで切り抜いて、目打やハトメ抜き、ヒシメ打ちなどで穴あけしておけば、手縫い糸や刺しゅう糸、毛糸を使って簡単にとじ合わせることができる。カシメ金具で止めておけばしっかりする上に、アクセントにもなる。クロムなめしの色牛革、ビッグスエード、プリントスエードなどカラフルな色革が、多数市販されているので利用しよう。

つくり方の要点

- 1 革を型紙どおりに裁断する。作例の材料を記してあるが、いろいろな革で応用できるので試してみよう。
- 2 本体に羽根、目玉をカシメ止める。→カシメ金具の打ち方は「革細工入門」参照。
- 3 尾、足、クチバシ、トサカなどを糊づけする。
- 4 本体のヘリ3ミリ位を糊づけし、ヒシメ穴をあける。目打ち、ハトメ抜きであけてもよい。この時、締結め用にクチを2~3cmあけておく。
- 5 周りを手縫いし、綿をつめ、クチも縫い合わせる。
- 6 鈴を通した根付けひもを取りつける。

実物大<フクロウ>



革をひねってつくる——指人形



応用例

マスコット

アクリル絵具でカラフルに模様を入れてみよう。
手綱をつけて赤い棒をつければ、縁起物のマスコットになる。
竹ぐしに巻きつけたビッグスエードを紅白にしても楽しい。

実物大

タンニンなめし成牛革1.2ミリ厚のもの

つくり方の要点

- 1 革を裁断し、必要な切り込みを入れ、ハトメ抜きで穴あけしておく(穴はクロスステッチ用でハトメ抜き7号)。
- 2 それぞれの動物を好みの色に着色する。
- 3 首の前を突き合わせにして、クロスステッチでとじ合わせる。作例はかがり用革ひもを使っているが、リボンなどでもよい。
- 4 首のところでヤマ折りにし、耳を立て顔の表情をつける。その時、革を少し湿らせ加減にするとやりやすい。



目は三日月の抜き型で。また丸抜きでもかわいい。カッターで切り抜いてもよい。



たてがみは二ツ折りにしてハサミで切る。目は抜き型(ネコメ)を使用。



耳の裏

耳の根元はハトメ抜き15号

耳の表



ウサギ、クマ、ブタの目はハトメ抜き5号



耳の裏にも色をつけておく。

クレヨン描き、染め、造形とモザイク

——ペンスタンドの動物園



先をくるくる
巻いておく。

ブチ模様の大きさ
はいろいろ。

折り曲げ分



頭はハトメ抜き15号、
目はハトメ抜き5号



1cmのリング
を鼻のところに
取りつける。

実物大

タンニンなめし皮革
1.2ミリ厚のもの

つくり方の要点

牛床革にクレヨンか皮革用液体染料で着色しておく。次に頭、尻尾、ブチ模様などを貼りつけたら、紙管に巻きつけて底をつける。

上部を折り曲げ、先を切り込んでおく。



いっぱい集めて動物園——自由に表現して楽しもう



着色した端革を切り抜いて、
牛床革の上に貼りつけるだけ。
空缶やビン、菓子箱などを利用しよう。

動物のお面いろいろ——空想の動物もいっぱい

革をひねったり、丸めたり、穴をあけたりして、土台の上に貼りつけていく。色もクレヨンやアクリル絵具、油性サインペン、皮革用液体染料などで自由に表現してみよう。皮革はタンニンなめし革のキズのあるところや、端革などを有効に利用しよう。



接着剤は酢酸ビニル樹脂系の白ボンドなどが、乾くと透明になるので使いやすい。
また接着力の強い合成ゴム糊はクリアタイプのものがよい。

スタンピング技法と革造形——トリのメガネスタンド



筒は空缶などを
利用してもよい。



応用例 トリの状差し

メガネスタンド型紙を140%拡大
すると状差しの寸法になる。卵型
の土台の上にカシメ止めし、下部
を手縫いしている。
→「革細工入門」参照

トサカ

タンニンなめし
成牛革1.2ミリ厚
左右対称形に2枚



本体

タンニンなめし成牛革1.6ミリ厚
左右対称形に2枚

スーパーカッターで切り込みを入れ、
刻印を飾り打ちする。
B702 細 E319LR O50 V407 E375



実物大

ペースト染料を塗布する
前の下塗り

染めの手順

- 1 トサカは皮革用液体染料の赤でしっかりと染めておく。
- 2 本体は皮革用染料とアクリル絵具で下塗りをする。
- 3 完全に乾いたらペースト染料を塗布し、布切れなどでよく磨いておく。
- 4 仕上剤を塗布。全体に丸くなるように形をつけておく。

つくり方の要点

- 1 模様をつけ、染色、仕上げが終わったらトサカを本体頭部に取り付ける。目の上の切り込みを頭に通しておく。
- 2 外表に2枚重ねてカシメ穴を合わせ、両面カシメ小を打つ。
- 3 底をつけた筒にかぶせる。

トラのリモコンスタンド



☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐

重ね合わせてランニングステッチする。
→「革細工入門」参照

A104
B702 細
S864



本体、底受け革
エンボスレザー(タンニンなめし)
11cm×23cm
0.75cm×21.5cm

実物大

底受け用皮革



底
少し厚めのしっかりした革

O O

カービング技法と革造形——馬と唐草の組み合わせ

実物大



スーパーナイフで切り込みを入れた後、スタンピングを施す。→「革細工入門」参照
唐草はA104 B702 C431 P213 V407。他にカシメ打ち小 A103 O12。馬にはF895 P368 などがあれば打ちやすい。またはB203 200 A104 でもよい。

アメリカンカービングといわれる革細工技法は、特徴的な唐草文様を中心に展開する。文様はアカンサスの葉や渦巻き、つるなどの基本形の組み合わせでできている。馬の彫りと組み合わせて小銭入れやキーケース、札入れなどに。

実物大



馬の表現法

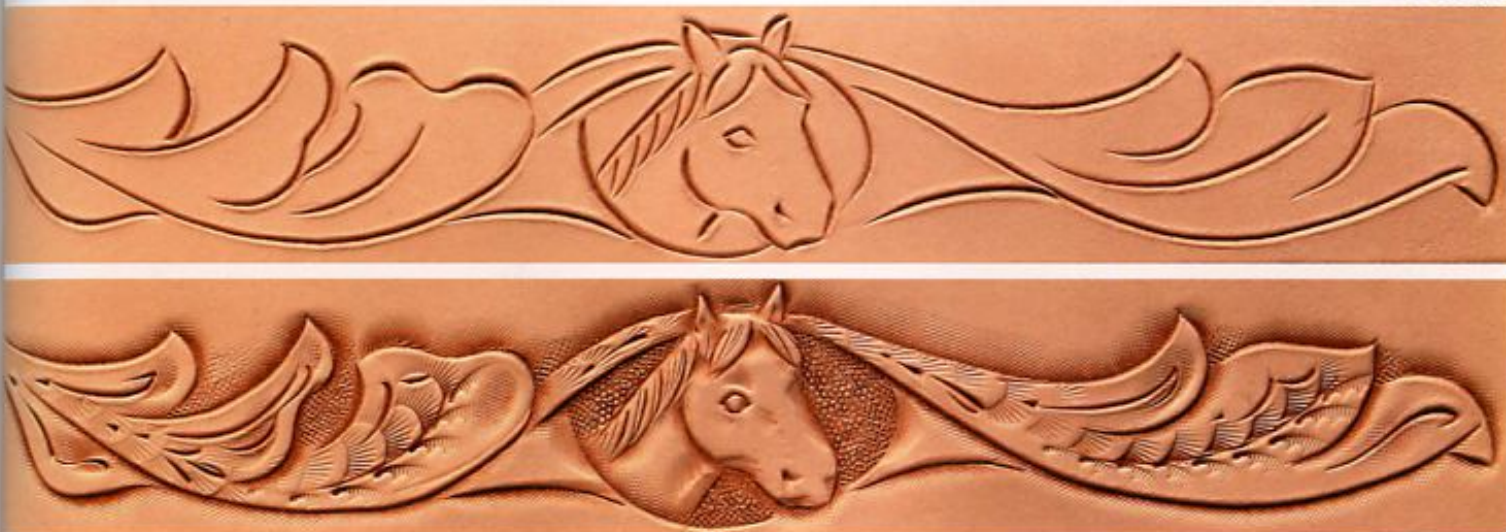
- 1 スーベルナイフで輪郭線の切り込みを入れる。
- 2 網目のベベラー(B702 細など)で文様の周りを打刻し動物の形を浮き立たせる。
- 3 スムースなベベラー(B200 B203 など)で顔の表面に凹凸をつけ、表情を出していく。目の内側は軽く打っておく。打ち過ぎないように気をつけよう。目や鼻

の穴など細いところは、フィギュア用の刻印を使うと打ちやすい。(F891 F895 など)

- 4 髪の毛、毛並みなどを縦すじのヘアシェダー(P368 など)で表わす。スーベルナイフで毛並みをつける。ヘアブレイド(毛並み用)を使ってもよい。

ベルトなどに…

実物大

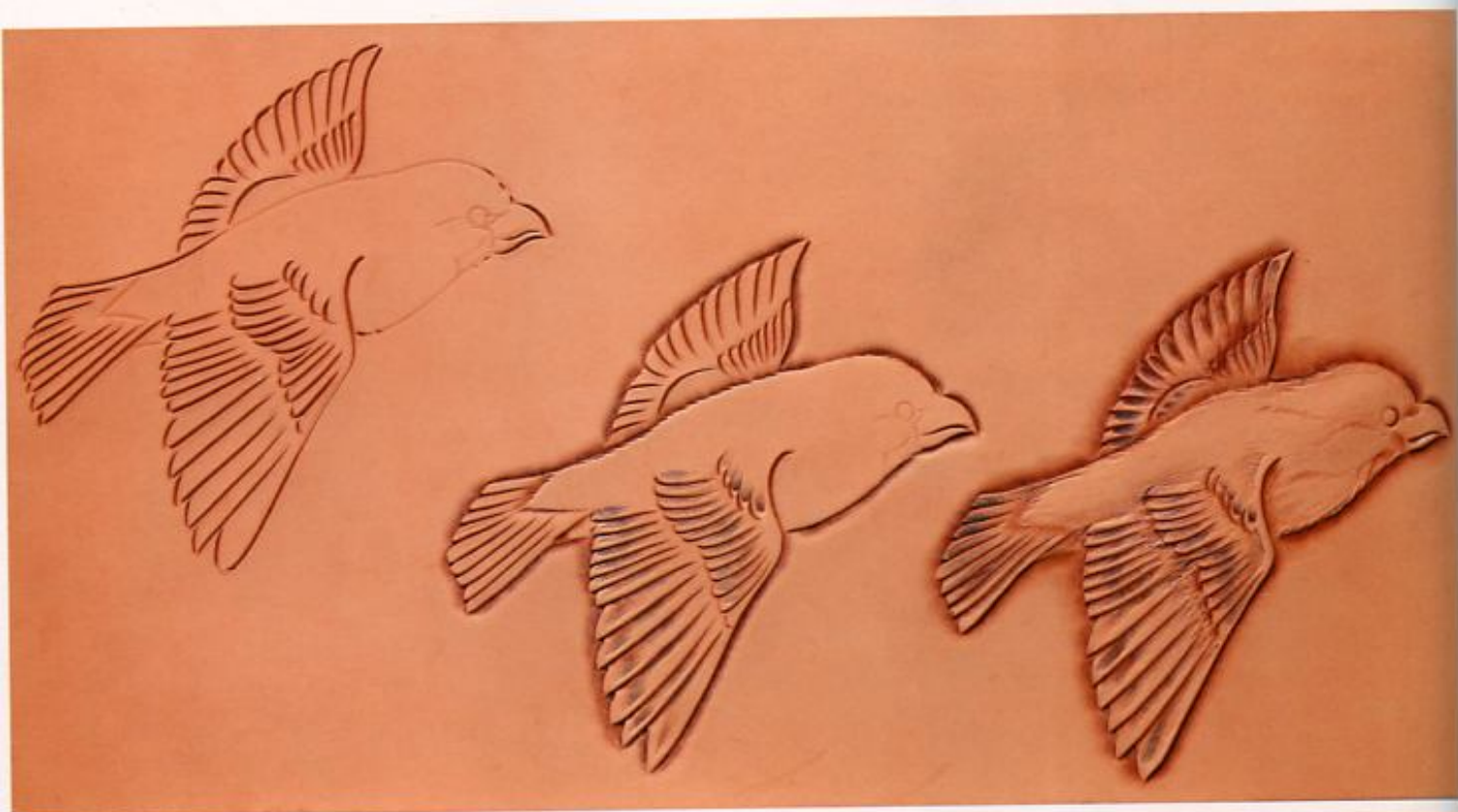


A102 A104 B702 細 C431 P213 V407。馬にはF891 F895 P368

トリを彫る

カービングの手順

- 1 スーパーナイフで輪郭線の切り込みを入れる。
- 2 ベベラー(B702 細など)で文様の彫りを浮き立たせる。
- 3 縦すじのヘアシェダー(P368 など)、スムーズなベベラー(B200 など)で羽根の感じを出す。Sの刻印で目を入れる(S706 S864 など)。



スーパーナイフ B200 B702 細 P368 S706 S864

最後に A104 で地の部分を軽く打つ。

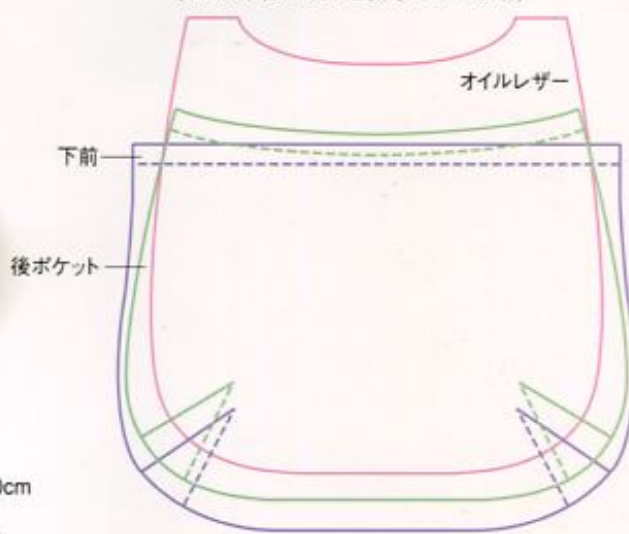
トリのショルダーバック



横から

手ひも
オイルレザー 2cm×100cm
ハサミ手カン2個
カシメ2組 ヒネリ1組

30%に縮小
(333%に拡大すると実寸になります)



下前、後ポケット
クロムなめし色牛革袋物用 各1枚

周囲はシングルコードバンスステッチでかがり仕立てにする。
→「革細工入門」参照



実物大

B702 細
C431
E386
P213 P368
V407 S633

龍を彫る



雲の表現法

E386の刻印を少し斜めに持って強弱をつけながら連打する。

ウロコの表現法

V710の刻印を交互に並べて打っていく。重ならないように気をつけよう。

札束入(二ツ折)の下図

図案は実物大



皮革は中パーツの大きさにあわせて裁断する。スーベルナイフの切り込み線と雲の打ち方(E386)



フィギュアカービング——イヌを彫る

動物や風景を革に彫る技法は、
フィギュアカービングと呼ばれている。
イヌの姿や形、表情を十分に観察して
特徴をつかもう。

バスケット刻印の打ち方

ガイドラインを1本引いておい
て刻印を交互に並べていく。

スーペルナイフで切り込む

輪郭線の切り込みを入れた段階で、
イヌの表情が決まってしまうので、十
分に注意して切り込みを入れる。

実物大

B200 B702細 E386 P213 P368 V407 X534

スーパーナイフで切り込みを入れた後、ベベラー
(B702 B200 など)で浮き立たせ、切り込み線の流
れに沿って刻印をすべらせていく。打ち残した部分
がふくらみとなり陰影をつくる。



目の表情や隅り、毛並みなどはスムーズなベベラー
(B200 B203 B60 など)かF895など連打して表現する。



縦すじのヘアシェダー(P368 など)で、毛並みを表わす。
スーパーナイフのヘアブレイド(毛並み用の刃)を使ってもよい。

実物大

森の小羊を彫る——風景と組み合わせて…

実物大



動物の壁飾りと応用例——自由な表現を楽しむ



トーテムポールの動物たち

北米・北西海岸先住民芸術から

アラスカからカナダを経て、アメリカ合衆国ワシントン州、オレゴン州にいたる北アメリカ大陸北西部の海岸沿いの地域には、そこに古くからすむ人々によってつくられた数多くの特徴的な図像があふれている。林立する巨大なトーテムポールをはじめ、豊富な森林資源を材料にした浮き彫りと彩画は、家屋の壁面(内と外とも)、木彫りの立像、仮面、箱、櫃、食器、狩猟具、漁具などにちりばめられている。また同様の文様が、シダー樹皮とシロイワギの毛で織り出されたチルクットローブとなっている。

文様はその多くが動物や自然現象を象徴的に図案化したもので、これらの様式化された象徴図像については、歴史的民族学的研究が報告されている。



木製箱 カナダ/北西海岸



ワタリガラス形仮面

カナダ/北西海岸
1986年製作



木製カエル形彫刻

ニシュガ カナダ/ブリティッシュコロンビア州
Gordon Claypon 作



小型トーテムポール

カナダ/ブリティッシュコロンビア州
Ernie Henderson 作



儀礼用木製船の道具(かい)

ツィムシャン カナダ/ナス流域
1850年代

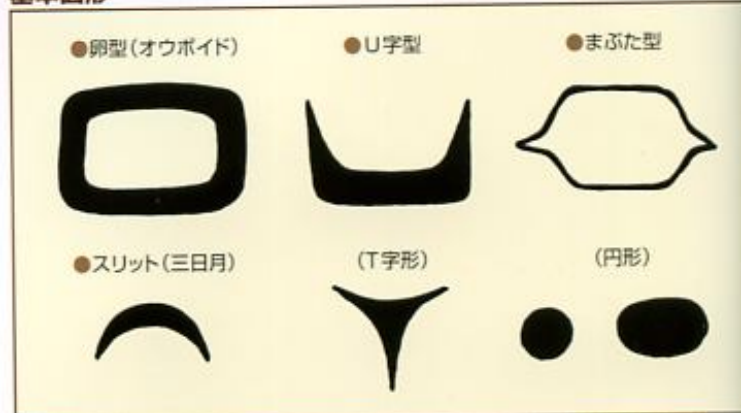
動物意匠はいくつかの基本形を組み合わせで構成されており、それぞれの動物の特徴が象徴的に表わされている。色も黒(木炭や黒鉛)、赤(黄土、赤鉄鉱)、青緑(銅、コバルト)、白、黄を中心とした明快で力強いものである。単純化や省略、分割、反復、デフォルメといった造形原理を追求したデザインは20世紀になって注目を集め、現代では新しくシルクスクリーンなどの技術も導入されて優れたアーティストが数多く誕生している。



貝殻ワタリガラス彫刻付木製くし

トリンギット 19世紀後期

基本図形



資料作品は北海道立北方民族博物館収蔵品。写真も同館提供。解説は同館資料目録による。
(参考文献)・笹倉いづみ『北西海岸インディアンの意匠』1994年 北海道立北方民族博物館研究紀要第3号
・大村敬一『象徴の森—北西海岸インディアンの象徴図像の世界』2001年
美しき北の文様展図録 北海道立北方民族博物館

基本形を組み合わせて革で表現——単純な形の中から新しい造形デザインを生み出そう



トテムポールの一番上部



カエル
大きな口、厚い唇、指のある足



クマ
耳がある、大きな鼻の穴、
舌、大きな口、歯



サンダーバード
頭のカール、曲がったクチバシ



ボタンローブ
ハイダ Don Yeomans, Betty Yeomans 作



ビーバー
大きな前歯、ウロコ状の尾

お面をつくる

——ビーバーのお面

お面のつくり方

土台は牛皮革2ミリ厚のもの。クレヨンで輪郭線を描き、皮革用液体染料を上からかける。クレヨンの線が染料をはじき浮き上がる。濃淡をつけて表情を出しておく。次にあらかじめ染めておいた端革をハサミで切り抜いて上から貼っていく。色は黒、赤、緑、白などが特徴的。ハトメ抜きで穴をあけたり、革ひもを結んだりして飾りをつけていく。湿っているうちに形をつけて立体的にする。



チルクットバッグ

カナダ／北西海岸

下塗り図

クレヨン描きの上に皮革用液体染料をかけた。

上に飾りの革を貼りつけて立体的にしてい。

完成図

鼻の穴はハトメ抜きで抜く。



実物大

ペン立てをつくろう

——積み上げてトーテムポールに

つくり方はお面と同じ。土台に着色したり、革を貼ったりして空き缶や紙管に貼りつける。底のある空き缶などを利用すれば簡単にできる。紙管には底をつけておこう。



ワタリガラス まっすぐなクチバシ、先は丸く舌がある。

皮革サイズ 8×20cm



▼中心



▼中心



作例は紙管とクラフトテープの芯を使って底をつけている。 皮革サイズ 5×26cm

掲載作品キット一覧

材料・用具の購入案内

商品ナンバー／掲載頁

商品名

税込み価格(本体価格) ※価格は2005年10月現在。変動がありますのでご了承ください。

作品でき上がり寸法(タテ×ヨコ×巾)

UW-301 p.12, p.21, p.30



動物抜き革(サファリ)3枚セット
トラ・ゾウ・キリン 945(900)円
トラ 3.5×8×2.5cm
ゾウ 3×7×4.5cm
キリン 8.5×4×2.5cm

UW-302 p.18, p.38



動物抜き革(イヌの仲間)5枚セット
ダックス3・お座りイヌ・立ちイヌ
945(900)円
ダックス 2×7×3cm
お座りイヌ 5×3.5×3cm
立ちイヌ 4×6×2.5cm

UW-303 p.16, p.17



動物抜き革(パンダ・クマ)3枚セット
パンダ・座りクマ・立ちクマ
945(900)円
パンダ 5×3×4cm
座りクマ 5×3×4cm
立ちクマ 3×6×2.5cm

UW-304 p.20



動物抜き革(フクロウ)2枚セット
フクロウ大・小 945(900)円
大 7×6×2.5cm 小 6.5×6×2cm

UW-305 p.19, p.28



動物抜き革(ネコとネズミ)4枚セット
ネコ3・ネズミ 945(900)円
ネコ 4×5.5×2.5cm
ネズミ 4×7×3.5cm

UW-306 p.29, p.34, p.35



動物抜き革(牧場の仲間)3枚セット
ウシ・ウマ・ヒツジ 945(900)円
ウシ 4×7×2.5cm
ウマ 5×7×2.5cm
ヒツジ 4×6×3cm

UW-307 p.23, p.31



動物抜き革(野の仲間)4枚セット
キツネ・リス・白ウサギ2 945(900)円
キツネ 5×6×3cm
リス 4×5×2.5cm
白ウサギ2 6×4×2.5cm

UW-308 p.14, p.24, p.25



動物抜き革(海の仲間)3種セット
オットセイ・アザラシ・ラッコ 945(900)円
オットセイ 5×7×5cm
アザラシ 2×8.5×5cm
ラッコ 8×3×2.5cm

UW-309 p.22, p.31, p.39



動物抜き革(山の仲間)4枚セット
野ウサギ2・イノシシ・トナカイ 945(900)円
野ウサギ2 6×4×2.5cm
イノシシ 3×7×2cm
トナカイ 6×7×2.5cm

UW-310 p.28~30, p.34, p.38, p.39



動物抜き革(動物の子供)6枚セット
ウシ・イヌ・イノシシ・ネズミ・ウマ・トラ
945(900)円
でき上がり寸法は掲載頁に記載

UW-311 p.28~p.39



干支置物台付(十二支から選べます)
840(800)円
でき上がり寸法は掲載頁に記載

UW-312 p.30, p.40



動物(3種類)セット
丸・楕円・長角 1260(1200)円
丸φ11cm 楕円10×13cm 長角9×14cm

この本に掲載した作品の一部をキットにしました。本書を参考にしながら、作品づくりにチャレンジされる方におすすめです。お近くの革手芸材料店でお尋ねください。次頁では通信販売の取り扱い店をご紹介します。各社とも革手芸材料・用具など豊富に取り揃えておりますので、お問い合わせください。通信販売のシステム・手数料など、店によって異なりますので、直接ご確認願います。

キットには、裁断した皮革、金具、革ひもなどと説明書や原寸大の型紙が入っています。UW311の干支置物は本文写真を参考にお好きな干支をご指定下さい。制作には、革細工用の道具や着色剤などを必要とします。次頁の取り扱い店では用具・資材も扱っております。本書を参考に合わせてご利用ください。



●革手芸材料通信販売取り扱い店のご紹介(お問い合わせは各社へ直接どうぞ) アイウエオ順

アンダーウッド	〒461-0048 名古屋市東区矢田南1-6-27	TEL 052-712-0722 FAX 052-712-5538
協進エル	〒111-0054 東京都台東区鳥越2-10-8	TEL 03-3866-3221 FAX 03-3866-3226
クラフト社受注センター	〒124-0022 東京都葛飾区奥戸4-13-20	TEL 03-5698-5511 FAX 03-5698-5533
セイワ	〒161-0033 東京都新宿区下落合1-1-1	TEL 03-3364-2111 FAX 03-3364-2115

●掲載作品キットネット販売取り扱い店

シュゲール(藤久株式会社)	〒465-8555 名古屋市名東区猪子石2-1607	TEL(フリーダイヤル) 0120-081000 FAX(フリーダイヤル) 0120-766233
		URL http://www.shugale.com Eメール info@shugale.com



略歴

1941年名古屋市生まれ。
1968年より朝日カルチャーセンター革工芸講座担当。
1973年日本レザークラフト協会設立に参加、現任同会副会長
1975年森下造形研究室開設。革工芸の教育システムの開発、
啓蒙活動、作品制作発表を続ける。皮革工芸史、特に日蘭貿易
によって渡来した金唐革の研究、調査にあたる。
1983年日本革工芸会の設立に参加。
この頃より大学、短期大学、医療系専門学校の非常勤講師
を歴任。革造形教育と併行して作業療法士養成教育における
革細工導入システム、作業分析の研究、実践。

森下造形研究室

〒461-0048 愛知県名古屋市東区矢田南1-6-27
Tel.052-712-0721 Fax.052-712-5538
e-mail milc@na.rim.or.jp
ホームページ <http://www.na.rim.or.jp/~milc>

革であそぶ 3 革でつくる動物

発行日 2005年10月25日

著者 森下雅代◎
発行人 大下健太郎
編集人 田中為芳
編集協力 吉田デザイン事務所
制作・撮影協力 森下造形研究室
岩田奈緒美 藤島幸花 森下章生
参考作品制作 朝日カルチャーセンター革工芸受講生
矢田児童教室
発行 株式会社美術出版社
東京都千代田区神田神保町2-38
福岡九段ビル8階 〒101-8417
Tel. 03-3234-2173 [編集]
03-3234-2151 [営業]
Fax. 03-3234-1365
振替 00150-9-166700
<http://www.bijutu.co.jp/bss/>
印刷・製本 共同印刷株式会社
AD 吉田カツヨ
デザイン・DTP 吉田カツヨ＋柳知里
撮影 桜井ただひさ

Printed in Japan
ISBN4-568-14096-X C2072

ISBN4-568-14096-X

C2072 ¥1800E

美術出版社

定価(本体価格1,800円+税)

<http://www.bijutsu.co.jp/bss/>

